

(英語版は[こちら](#))

国連訓練調査研究所（UNITAR）広島ラウンドテーブル  
「アフガニスタンの復興・挑戦と貢献」  
柴山昌彦外務大臣政務官による開会の辞

アミン大使閣下、  
UNITAR広島事務所の皆様、  
ご列席の皆様、

1. まず、アフガニスタンの平和のために努力した、前途有望な青年であった伊藤和也氏についての、アルサラ筆頭大臣のお言葉に感謝申し上げます。本日は、UNITAR（ユニタール）広島事務所が主催されているアフガニスタン公務員訓練プログラムの最後を締めくくるものとして、このラウンドテーブル開催の運びになったことを、お祝い申し上げます。このプログラムは、2003年に立ち上げられて以来、毎年数十人のアフガニスタン政府職員、学術関係者、専門家などに訓練の機会を与え、これからのアフガニスタンの国家建設を担う人材を多数育成してきたと伺っています。このような努力を続けてこられたUNITARを始めとした関係者の皆様、及び、この取り組みを支援してこられてきた広島県の皆様に、敬意を表したいと思います。また、今年のプログラムを修了される方々に、お祝いを申し上げます。
2. ほぼ7年前、日本は、復興を願うアフガニスタン国民の意志をいち早く支持し、2002年2月に、その後の復興プロセスの端緒となるアフガニスタン復興支援国際会議を東京で主催しました。その後の、国際社会全体の支援を受けたアフガニスタン政府・国民の努力により、アフガニスタンは、政治プロセス、復興の両面で、目覚ましい成果を挙げました。この過程で我が国が種々の分野で行った支援は14.5億ドルに上り、更に、国際社会とともにテロとの闘いの一翼を担うとの観点から、インド洋上で海上阻止活動に対する補給支援活動に従事し、引き続き従事したいと考えます。
3. このような成果がある一方、アフガニスタンにおける治安は不安定の度合いを強めており、アフガニスタンにおける「テロとの闘い」は今まさに正念場を迎えています。本で行われる議論でも明らかになると思いますが、アフガニスタンに対する支援の重要性は、当面、低下することはないでし

よう。我が国としても、6月のパリ会合でプレッジした5.5億ドルの支援を着実に実施していく考えです。

4. アフガニスタンへの支援が引き続き必要であるということにつき、国際社会の意見は一致していると信じます。しかし同時に、アフガニスタンの国造りは、あくまで国民のオーナーシップに基づき進められなければ達成できないことも指摘しておかねばなりません。テロ・治安対策、復興支援いずれも、将来、アフガニスタン国民が、自らアフガニスタンの治安を維持し、国家を運営していくようになるための基盤を整えるために行っているものです。このような観点から、この訓練プログラムは、正に自ら国家を建設していくアフガニスタン人を育成するものであり、非常に適切なアプローチを取っていると考えます。
5. この機会に、日本の支援が多くの分野を対象としつつも、人材育成の重要性に意を用いてきたことを紹介したいと思います。日本の支援により建設・修復された学校は500を越え、多くの学童に学びの機会を与えています。また、JICAの技術協力を通じ、教育分野でこれまでのべ180人以上の専門家を派遣し、100名以上の研修員を受け入れています。アフガン国民が復興を希望し、努力を続ける限り、日本政府及び日本国民はアフガニスタン国民の主体的な努力に対して可能な限りの支援をおこなっていきます。
6. 折しも、我が国の国会は、海上自衛隊によるインド洋での補給支援活動継続の是非、我が国の対アフガニスタン支援のあり方などを議論しています。我が国を含むいずれの国も、アフガニスタンへの支援を続ける大前提として、国民の支持が必要です。本日のラウンドテーブルでの議論が、日本国民が、アフガニスタン支援の重要性への理解を深める機会になること、ひいてはアフガニスタンの国作りを後押しすることを強く期待しているということを申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

(了)